

国語科学習指導案(限)

中学校 2 年

授業者 石井 希代子

クラス 2 年 C 組 40 名

場 所 2 年 C 組 HR 教室

1. 単元

「ものの見方」を問題化する授業 - 「言葉」について考える -

2. 単元設定について

学習指導要領の第 2 学年及び第 3 学年の目標(1)には「自分のものの見方や考え方を深め」ということが明記されている。自分のものの見方や考え方を深めるとき、そこでは自分自身がどのようなものの見方をしているのかということが認識されていることが前提となる。どのようなときに自分のものの見方が認識されるのか。それは自分とは異なるものの見方、考え方と出会うことによって、相対的に 他者 とは異なる自分のものの見方や考え方を自分自身のうちに発見するときである。しかし、せっかく異なるものの見方に出会っても、自分のものの見方のみにとらわれていては「ものの見方」は深まることはないし、変容していくこともない。「ものの見方」を問題化すると、自分のものの見方が唯一絶対のものではないということに気づき、自分のものの見方を問い直すことである。

今回はその題材として「言葉」を扱い、筆者が外国で体験した言葉が通じるからこそまるまる誤解について述べられた「伝え合い」(西江雅之『旅人からの便り』1995 年より) と、言葉は単なる表現・伝達的手段であるにとどまらず、そこには文化やものの見方があらわれているということが述べられた「言葉についての新しい認識」(池上嘉彦『ことばの詩学』1982 年より) を教材として使用する。今回の単元では、先に述べた「ものの見方」を問題化することとともに、言葉の特徴や働きについての知識・理解を深めることによって、言葉には「ものの見方」があらわれていることを認識させたい。このような認識に立つことは、表現された言葉にどのような「ものの見方」があらわれているのかを問題にする視点を獲得し、表現者が言葉によってどのような「ものの見方」を取り上げて何を行っているのかを見抜く力をつけていくための基盤となる。

3. 既習の関連教材

表現・話すことに関わる教材

- ・川上裕之「話し方はどうかな」

(『言葉のプロムナード』を書き改めたもの) 東京書籍『新しい国語 1』所収

- ・『新しい国語』編集委員会「わかりやすく話そう」 東京書籍『新しい国語 1』所収

文化・ものの見方に関わる教材

- ・桑原茂夫「ちょっと立ち止まって」

(『だまし絵百科』を書き改めたもの) 光村図書『国語 1』所収

- ・渡辺武信「玄関扉」

(『住まい方の演出』を書き改めたもの) 三省堂『現代の国語 1』所収

- ・井上忠司「視線を避ける文化」

(『まなざしの人間関係』を書き改めたもの) 東京書籍『新編新しい国語 2』所収

4. 単元目標

- (1) 「言葉」を対象化し、その特徴や働きについての認識を深める。
- (2) 新しく得た知識・理解をもとに日常の言語活動を振り返り、とらえ直す。
- (3) 目的に応じて情報を集め、聞き手によく伝わるように工夫して発表する。

5. 単元の展開 (全9時間)

第一次 「伝え合い」(西江雅之)を読む。(1時間半)

「言葉についての新しい認識」(池上嘉彦)を読む。(1時間半)

「伝え合い」「言葉についての新しい認識」で述べられていたことをそれぞれまとめる。

第二次 それぞれの文章で紹介されていた事例と同様の事例を探す。(1時間)

A. 同じ言葉でも文化や慣習、ものの見方によって受け取る意味が異なる事例

B. 文化や慣習、ものの見方によって同じものを見てもそれを表す言葉の細かさが異なるという事例

各自が考えたものをもとにグループ(5人×8班)による調べ学習・発表準備。

(2時間)

第三次 発表。(2時間) 本時

第四次 評価シートをもとにしたまとめ(1時間)

6. 単元の評価規準

ア. 国語への関心・意欲・態度

グループによる話し合い、調べ学習に積極的に参加している。

他のグループの発表に対して感想や意見を述べようとしている。

イ. 話す・聞く能力

聞き手を意識して、調べた内容について効果的に説明できる。

自分たちの調べたこととの共通点や相違点などを聞き分け、自分の考えを深める。

ウ. 書く力

必要な材料を集め、筋道立てて整理することができる。

自分の理解したことを的確に表現することができる。

エ. 読む能力

具体的な事例とそこで述べようとしている意見(考え)とを区別して読み取ることができる。

文章で述べられていることを具体化して考えることができる。

オ. 言語についての知識・理解・技能

言葉にあらわれている文化やものの見方についての知識や理解を深める。

7. 本時 (7 / 9 時間)

(1) 目標

聞き手を意識しながら調べたことを効果的に説明する。話し手の話す内容についての的確に聞き取り、言葉にあらわれている文化やものの見方についての知識・理解を深める。

(2) 展開

時間	指導内容・学習活動	評価規準との関連	評価方法
10	導入 評価プリント・発表原稿の配布 発表の手順の確認・発表の準備 展開 発表 (質疑応答) 評価 3あるいは4グループ発表	イ ウ エ ア イ ア	観察・評価シート 観察 評価シート
48	終結 次時の確認		

伝え合い 西江雅之

展開

ソマリアでの話（具体例）
現在のナイロビでの話（考察）
海岸地帯の人の話（具体例）
筆者の考え（まとめ）

言葉が通じてしまうからこそ
単純な事柄が複雑な事態と
なってしまうことがある。

ソマリアでの話

「日本には羊はいませんよ」
わたし
羊がいらない
食料がない

「ありがとう」
わたし
海岸地帯の人の話

わたし
周りの人々
食料がない

わたし
海岸地帯の人

相手になにか
してもらった
とき
相手への感謝
神への感謝

相手になにか
をしてあげた
とき
善行の機会を
与えてくれた
神への感謝

言葉についての新しい認識 池上嘉彦

言葉…思いや考えを伝えるもの
コミュニケーション手段
難しいもの
ときに人を傷つける武器

従来の認識
思想を表現し伝達する手段

新しい認識
単なる表現、伝達的手段以上の何か
文化や思考様式と深い関わりを持つ
文化を象徴するという機能を持つ
(例)
・ アニ・オトウトノ brother
・ イネ・コメ・ゴハンノ rice
・ シミノ sin crime
(…の上に on over above)

調べ学習の手順

- 各自が考えてきた事例をグループの中で検討する。
- どの事例について発表するか考える。
- どのように発表するのか考える。

発表原稿
実際の発表

具体例で述べられていたこと

A 「伝え合い」
同じ言葉でも文化や生活習慣などが違い、受け取る意味が異なり、誤解を与えてしまうこともある。

B 「言葉についての新しい認識」
同じものを指す言葉の区別の仕方
や、言葉の細かさにはそれぞれの文化や慣習があらわれている。